

王鐸秋興八首冊節臨

河内 利治(君平)
Toshiharu (Kunpei) Kawachi

王鐸の書をベースに大作を手がけたのは、かれこれ二十年ほど前になる。板橋区立美術館の企画展『美しきもの・墨』板橋ゆかりの作家』(二〇〇一)に漢字(行書)五点を出品した。そのうちの良寛詩五絶「時憩」縦二七三・五×横七〇cmがそれである。いわゆる長條幅形式であった。爾来、学生諸君のなかには、王鐸の臨書または王鐸風に書きたいという者が多く、範書することを続けてきたが、縦形式ばかりであった。そこで横形式(冊頁・巻物)で真似てみたいと思い、北京の故宮博物院所蔵『秋興八首冊』縦二八・一×横一三・八×一七・七cmに挑戦した。図版としては、

○河南美術出版社『王鐸書法全集』第四冊(二〇〇一年発行)

二七六《秋興八首冊(五十八歳作)》一二八四×一三二〇頁

が全三十七葉・全五一七字を掲載しており、

○文物出版社『王鐸書畫編年圖目』一九〇頁(二〇〇四年発行)

順治六年・己丑・一六四九年《草書秋興八首詩冊》

が八葉のみを掲載している。^(註)

節臨した箇所を後掲の詩に波線で示したが、手本としてダウンロードした画像が、実は飛び飛びだった。^(註)その結果、節臨になってしまったというのが本当のところである。その後、何回か全臨し直したのだが、結局この一作目を超えられなかった。何故に超えられないのか。考えると、それは「衝動」の一語に尽きるように思う。

昨今の学生の多くはスマホに存儲した画像を見ながら書いている。画像には、白黒コピーよりも遥かに高画質かつ拡大縮小が自由自在であるので、手本には打って付けのものもある。稿者も「微信」や「頭條」などから「高清图」を下載しては目習いしている。今回の節臨も目習い中に書いてみたい「衝動」に駆られて一気に書いたものである。何回か書くとその「衝動」が薄れ、薄れると書いても楽しくなくなる。そうすると面白い書にはならないのである。

王鐸の書、それも特に横形式の行草の面白さは、筆法の「転変」

にあると思つてゐる。絶妙な「提・按・頓」が、多彩な節奏と姿形を生み出すのである。

書跡《秋興八首冊》积文(1)~(8)と波線は稿者が付した。

己巳作秋興八首

(1) 搖落西風莽自哀、蕭條門巷(閉)近山隈。

人情祇覺年華變、辭賦先愁老髩催。

紅樹城邊蟬欲斷、白雲天際鴈初回。

誰知磊塊猶無限、日暮寒花獨酒杯。

(2) 憶昔直廬侍紫朝、梧桐金井暗蕭蕭。

天圍太液疏宮苑、月傍端門冷御橋。

貂錦班回人影散、霓裳聲斷露華消。

素淩七載慙高隱、桂怨猿啼不可招。

(3) 武昌城外漢江流、城下人傳黃鶴樓。

古事古人不可見、江雲江草自生愁。

珠簾捲盡瀟湘雨、錦砌吹開函菖秋。

鏡篋仙風勞夢想、濤聲山色滿孤舟。

(4) 關門峭壁月如霜、左輔神京舊戰場。

夜靜山樓吹畫角、秋高鼙鼓震扶桑。

漢廷久美侏儒飽、宣室深悲賈傅狂。

慷慨聞鷄揮劍舞、星文錯落滿瑯房。

(5) 開關名山五嶽尊、願從杖屨探天門。

畫圖每向亭間響、婚嫁依然河上園。

古磻幽壇巡佛案、危崖削壁過山村。

何年偏歷留名姓、萬仞高峰欲斷魂。

(6) 楚界鉛山連劍浦、越王烏石枕僊丘。

雲深荔熟江城暮、瘴起龍眠海國秋。

小隊鳴鏐浮地響、畫船引纜壓天流。

回頭苦憶烽烟島、滿目悲涼蘆荻洲。

(7) 想像石城擁玉珂、高皇定鼎鬱嵯峨。

潮聲鍾阜空江落、秋色秦淮隔岸多。

龍礎荒涼沈夜漏、鳳樓寂寞捲天河。

鎬京王气遲登眺、六代煙花意若何。

(8) 每懷葛竈盧敖杖、銀榜瑤題世外清。

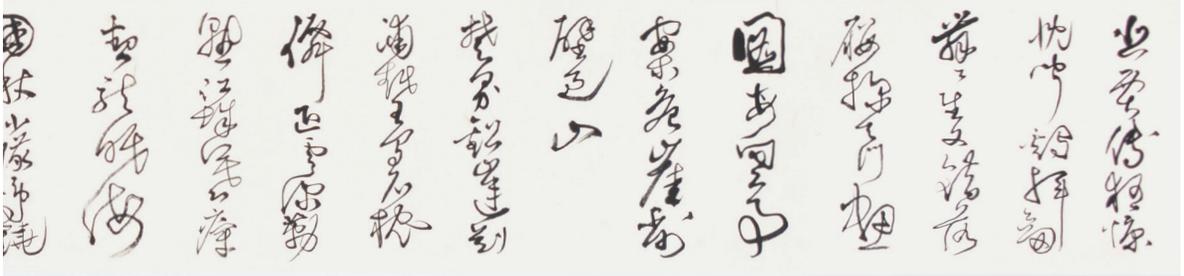
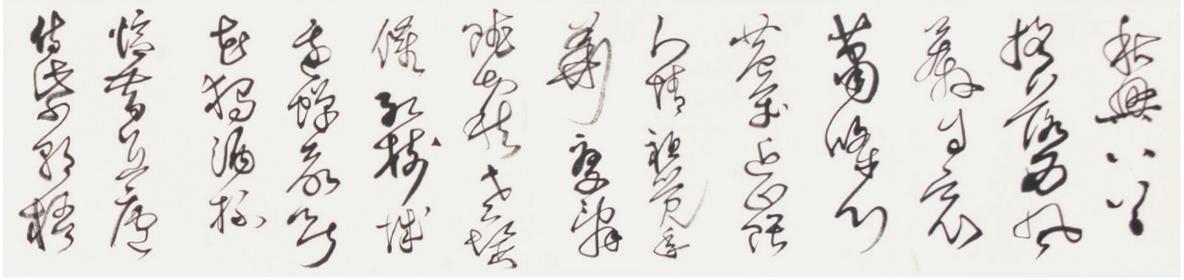
天女撥雲來種藥、僊人携我坐吹笙。

書傳滄海八千鶴、花爛芙蓉十二城。

從此丹砂添羽翼、逍遙散髮足長生。

此詩已廿年矣。偶書恐不堪觀。清正。荊田老親翁。王鐸書於汪洋齋中。

第一葉に「己巳作秋興八首」との詩題があり、第三十六葉から第



三十七葉にかけて「此詩已廿年矣。偶書恐不堪觀。清正。荊田老親翁。王鐸書於汪洋齋中。」との款識がある。

鈴印は朱文「王鐸之章」と白文「大宗伯印」の二類。白文収蔵印「平香書室珍藏之印」が第一葉と第三十七葉にあり、第三十二葉左下角に「荊田」印（荊字朱文・田字白文）がある。

本書跡を順治六年・己丑・一六四九年の五十八歳作と記載するのは、「己巳作秋興八首」と「此詩已廿年矣」に拠っている。己巳（一六二九・崇禎二年）の二十年後が、己丑（一六四九・順治六年）である。

(i) 故宮博物院のホームページ検索エンジンからは本書跡を検出し得なかった。

https://www.dpm.org.cn/full_search/王鐸

(ii) 『王鐸書畫編年圖目』一九〇頁には「圖目:8888 草書秋興八首詩冊」との記載があるが、文物出版社「中國古代書畫圖目（全二十四冊）」からは本書跡を検出し得なかった。

(iii) <http://www.yac8.com/news/9613.html>に拠ったためである。

http://www.360doc.com/content/16/0114/14/974066_52784280.stmなどは全三十七葉を掲載しているので、興味のある方はこちらをご覧ください。

(iv) 歴代畫家詩文集『擬山園選集（全六冊）』台灣學生書局印行（一九七〇

